西成製靴塾

西成地区の地場産業である製靴・皮革産業の活性化を図る「西成製靴塾」は1999年６月に開設されました。設立までの２年間は皮革関連産業の産業・生活基盤の整備とともに、人材の発掘、地場産業の復権・発展のためのさまざまな事業を展開しており、その集大成として西成製靴塾が設立されました。

地区の地場産業である皮革関連産業は、中小零細で、脆弱な基盤で営まれているのが現状であり、そのため早急な産業・生活の基盤整備を図っていく必要がありました。また、当時はガット・ウルグアイランドによる関税自由化の嵐はいやおうなく靴業界をはじめとする皮革関連業界にも大きな影響を及ぼし、西成地区の歴史ある産業「製靴・皮革産業」の活性化を図ることが迫られていました。

地区の地場産業である「皮革関連業界」の活性化を図り、若者が集まる集客皮革工芸都市「西成」を念頭に置き、「㈱西成クラフトセンター」という新たな工場アパートの大きな柱として西成製靴塾が位置づけられ、設立されました。靴業界の活性化、新たな靴でくりマイスターの養成をめざし、東京の靴学院や工房の視察はじめ「㈱西成クラフトセンター」の建設実現などさまざまな取り組みが行われてきました。そこには西成区の皮革関連産業は中小零細で、脆弱な基盤で営まれており、1995年の阪神・淡路大震災での神戸のケミカルシューズ業界の教訓を踏まえ、皮革関連業界の早急な生活基盤を図っていくことが大きな課題となっていることがありました。

「西成クラフトセンター㈱」は北津守４丁目において新たな工場アパートを具体化するもので、地下１階、地上７階、延床面積6,000㎡をこえる施設で、集約型工場、技術研修施設、就労支援施設、交流サロンなどの福利厚生施設で構成する計画でした。

また一方、津守西保育所跡地に誕生した「西成生きがい学習センター」には北津守クラフトセンター「あすなろ工房」でも靴づくりをはじめ、皮革工芸の新たな展開を図ってきました。97年には在宅介護を支援する障がい者の就労支援事業の具体化として「チャレンジド」を長橋住宅１階に開設、障がい者の自立就労支援と、障がい者自身にとって使いや器具の選定やアドバイスを含めた福祉器具などの販売を行っており、また１室では97年から靴づくりの講習が行われ、販売も行ってきました。さらに、鶴見橋商店街に97年９月に㈱ナイスが開設され、１階にはリフォームなどを行う機能が、２階には「時風」（シ・パラン）と名づけた皮革工芸品の販売展示を行うなど、西成製靴塾設立に向けての様々な取り組みが行われてきました。

西成製靴塾は製靴・皮革産業の活性化とともに、西成の“職人技術を後世に伝える”、そのため、職人がじっくり教え“手作りの製靴技術の習得”することを内容とし、小学校の空き教室を利用する「地域立」の靴の学校です。

モノづくりの基礎は手づくりにあります。かって全国シェアの８割を占めた西成の

靴産業を支えたのは一人ひとりの職人の確かな腕でした。西成の職人技術を後世に伝えたいと靴の学校が西成製靴塾です。西成製靴塾は西成地区の歴史ある「製靴・皮革産業」の活性化を図るために 1997 年から開塾の準備を進めて 2 年後の 1999 年 6 月に長橋小学校の空き教室を使って、単に製靴の技術研修だけでなく、靴に関する高度な技術や意匠デザイン、また皮革製靴産業に関する基礎的な知識の修得も目標として開設されました。西成製靴塾の目的は「職人技術を後世に伝承」することであり、その内容は「手作りの製靴技術の習得」にありました。特にカリキュラムはなく、指導者の下で自由に制作する、昔ながらの「手縫いの靴」の製造技術(型紙、製甲、底付けなど)をベテランの職人がじっくり教えるというものです。開塾した当初はインターネットなどで全国に紹介され、入塾希望者が殺到し待機者ができるほどで、その結果第 1 期生として 16 人が入塾しました。

図. 西成製靴塾の開校を報道する新聞記事

小学校・空き教室で伝統産業守る

靴職人の技後世に

「西成製靴塾」今月から〝開校〟

990601 産経(朝)

空き教室で伝統技術の継承を。高齢化が進む大阪市西成区の靴職人の技術を伝える「西成製靴塾」が、六月から地元の小学校で〝開校〟する。空き教室の利用は市教委の生涯学習ルーム事業として取り組んでいるが、靴好き文化サークル的な活動がほとんど。関係者は「子どもたちが地元の伝統産業を学ぶ機会も増える。地域で支え、その技術を全国に発信したい」と話している。

かつては全国シェアの八割を誇ったという西成地区の高級婦人靴。機械化で安い工程がほとんどで、熟練した靴職人の技よりも、「西成プランド」を支えた。

だが、時代の流れにもまれるなか、高齢者の外部に引退したり、大量生産の輸入品の増加や割り不況などで廃業に追い込まれる職人も。このため伝統的な製靴の技術を後世に伝えようと、西成区内づくり委員会が中心になって「西成製靴塾」を平成七年に開設した。

インターネットのホームページで紹介したところ、全国から「自分の足にあう靴を作りたい」「自分の店を持ちたい」といった反響があり、「昨年四月からは地元の介護ショップの「角を使い、職人さんが若手大学教室の原用を強めている市教委や地元の長橋小学校と交渉。「生涯学習」という「貴重な伝統」にとらえ、同校の空き教室を使えることになった。

靴は月曜から土曜まで午前十時から午後三時まで開校。後継者育成のため隔週に土曜日と靴職人の井村義清さんが塾長になり、靴に関する高度な技術やデザインはもちろん、製靴産業に関する全般的な知識も教える。

市教委の生涯学習ルーム事業は平成元年からスタート。初年度は十三校だったが、今年度は市立小学校(一〇)へ。百九十六校中、二百五十校が利用している。

絵画や陶芸、フラワーアレンジメントなど、趣味的な活動が多く、製靴塾のような例はこれまで。市教委の委員会・生涯学習課長は「地元の産業が子どもたちの目にふれる機会もふえ、意義に感じると思う」と話している。

製靴塾の入会金は三万円で、月謝は一万円。カリキュラムは一年単位で組んでいるが、途中からの入塾もできるという。問い合わせは西成まちづくりプラザ(☎06・4302・909)へ。

靴職人の技術を若者に教える井村義清さん(右)。今度は地元の小学校で塾を開く=大阪市西成区

開塾当初はマスコミ等大きく取り上げられ、全国各地から 100 人弱の入塾希望者が殺到しました。入塾希望者は女性を中心に若い人が多く、比較的高学歴で、靴の販売等の経験者やデザイン・アパレル関係等「衣」に関数経験者が約 3 割を占めるものの、現職を含め職歴は多彩となっています。ただ、「趣味（アマチュア)」の靴づくりと職人あるいは工房・店を持ちたいという「プロ」と、意識が異なる入塾生が同居したような形でスタートするなど、取り組む意識の違いが出ています。

「西成製靴塾　入塾希望者及びヒアリング調査等報告書」(2001 年 4 月)によると、当時の入塾者は、女性が 6 割、20 歳代以下が 8 割を占めています。高学歴、芸術・デザイン系が多く、職歴も靴・アパレルを中心に職歴も多彩でした。40～60 歳代の

中高年の方々もおられました。その志望動機は、大きくは３つありました。第１は「靴への愛着、第２は「既製靴への不満」、第３は「手づくりへのこだわり」でした。その目的の第１は自分の靴を創りたい、でした。次いで「靴職に職人になりたい」、「自分の工房、店を持ちたい」というように、「趣味（アマチュア）」の靴づくりと職人あるいは工房・店を持ちたいという「プロ」と、意識が異なる学生が同居したような形でスタートしています。そして製靴塾を選んだ理由は、授業料が安い、実際の職人さんから学べる、自由に作れ、自分のペースで学べる、小学校の空き教室利用という環境が最高、となっています。この“アマチュア”と“プロ”の同居ということが、今後の製靴塾の方向性を決めるうえでの課題となっています。

「西成製靴塾　入塾希望者及びヒアリング調査等報告書」(2001 年４月)から

本調査は西成の製靴産業の不振が続く中で、製靴塾が多くの若者を引き付ける理由を探り、今後の製靴塾の在り方とともに、「靴のまち西成」復活への可能性を探ることを目的としています。

○入塾希望者及び塾生の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・

✓女性を中心に若い人が多い
✓少数であるが 40～60 歳代の応募者がいる
✓比較的高学歴が多い
✓稼業や会社業務の関係で来る者はみられず、靴の販売等の経験者やデザイン・アパレル関係等「衣」に関数経験者が約３割を占めるが、現職を含め職歴は多彩
✓大阪府内、近畿県が当然多いが、テレビ、インターネットによる全国各地遠方からの応募が目立つ

- 応募地
  ①近畿 71 人（74%）②東海・九州６人（6%）③関東・中国４人（4%）
  ⇒大阪府内内訳(50 人)
  ①北摂 17 人(34%)②大阪市内 11 人（18%）③堺市６人（12%）
- 最終学歴(回答者 29 人)
  ①大学・大学院８人(27%)②高校７人(24%)③大学在学中・短大６人(21%)
- 職　歴(回答数 35 人)
  ①事務員７人 ②靴(販売・デザイン系)5 人 ③販売員、服飾・アパレル系４人
- 申込時の就労状況
  ①就業中 23 人（53%）②無職 12 人（27%）③学生９人（20%）
- 情報入手先(回答数 24 人)
  ①テレビ放送 12 人(50%)　②インターネット８人(33%)　③新聞４人(17%)

○入塾希望者及び塾生の志望動機・・・・・・・・・・・・・・・・・・

- 靴への愛着
  ・靴が好き・靴へのこだわり
  ・素敵な靴との出会い
  ・素材が革という魅力
- 手づくりへのこだわり
  ・手作り品の魅力
  ・自己主張
  ・モノづくりが好き
- 既靴への不満
  ・足と靴と健康
  ・デザイン・サイズ

○将来の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・

- 職人志向
- 工房へのあこがれ

○西成製靴塾を選んだ理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・

- 授業料が安い
- 家から通える
- 塾長の靴に対する熱意、指導の様子
- 小人数でアットホーム
- 自分のペースで学べる
- 木型づくりが学べる
- 実際の職人さんに学べる
- 小学校の空き教室利用―環境条件が最高

○総括（調査結果から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・

- 若者の「靴」に対する関心の高さと強さ
- 靴づくりをライフスタイルにしたいという若者が増えている。
- 手製靴の技術を学び、靴職人になることを望んでいる

こうした西成製靴塾の現状分析の上に立って、報告書は次のように今後の方向性を示しています。

○今後の検討課題は･･･

- しかしながら、手製靴は高コスト（10から０万円）で、市場性が低い分野である。手縫いをやっているメーカーもほとんどない状況では、食えないのを覚悟で自営の道を探ることになる。
- 製靴塾は、伝統技術の伝承の場として、基礎的技術の研修を行い、製靴を上げてきた。しかし独立開業や就職を考えた場合には理論や新しい技術の研修も必要になる。
- 彼ら自身、市場調査や様々な製法研究等、独立を指向する者としては、なすべき努力が不足している。製靴塾に対する期待とメニューとのギャップに不安、不満の声も出ているが、製靴塾が提供する範囲と自己責任の範囲を明確にしておかなければならない。

○そのため今後の方向性は

①製靴塾の目的・役割の再検討
②製靴塾を起点とした新しい産業振興のイメージ

出典：**西成製靴塾　入塾希望者及び塾生ヒアリング調査等報告書**
発行日：2001 年４月９日

：**一変身、5 年の軌跡―　西成の部落解放運動**
発行日：1998 年７月 15 日
発　行：部落解放同盟西成支部